

# 平成 26 年度東京文化発信プロジェクト事業の評価結果

平成 2 8 年 3 月

東京都と東京文化発信プロジェクト室（公益財団法人東京都歴史文化財団）は、東京芸術文化評議会の提案に基づき、「東京から世界へ 新たな文化の創造・発信」をキーワードに、平成 20 年 4 月に「東京文化発信プロジェクト」を立ち上げました。以来、東京に集積する人材・施設などの文化資源を最大限に活用しながら、以下の 4 つの目標を目指し、芸術団体やアート NPO 等と協力して、幅広い分野の文化事業を展開してきました。

- 1 世界的なフェスティバルの開催を通じて、東京における芸術文化の創造活動の拡充を図るとともに、国際的な創造・交流拠点としての認知を高める。
- 2 次世代の担い手となる子供・青少年たちへ、芸術文化の多様な創造活動を体験する機会を提供し、創造性に満ちた豊かな感性の育成を目指す。
- 3 アーティストと市民が協働するプログラムをまちなかで展開するとともに、創造型 NPO 等と協働し、教育、環境など他分野と連携しながら、地域の文化創造拠点を生み出す。
- 4 「世界的な文化創造都市・東京」を国内外にアピールするとともに、国内外の関係者が東京に集うプログラムや事業を展開し、ネットワークを強化する。

この「東京文化発信プロジェクト」の継続的な改善を目指し、平成 25 年度に実施した事業を対象として、事業評価を実施し、東京芸術文化評議会に提出しましたので、公表します。

#### 東京文化発信プロジェクト 事業評価概要

##### 1 対象

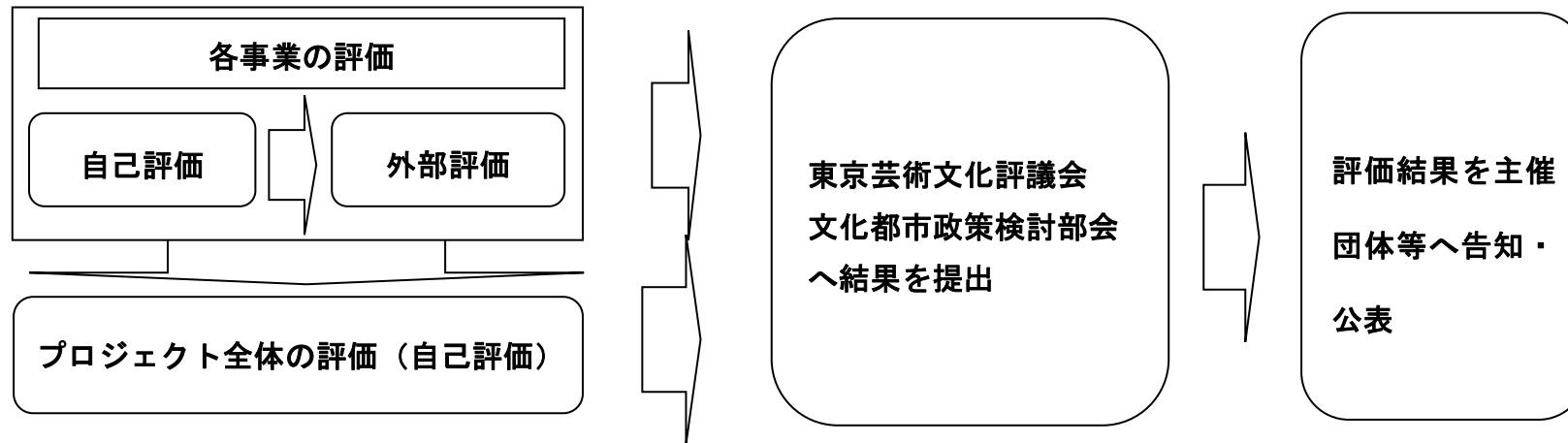
(1) 東京文化発信プロジェクトで実施した事業のうち以下のもの（計 16 事業）

世界的なフェスティバルの開催を通じて、東京における芸術文化の創造活動の拡充を図るとともに、国際的な創造・交流拠点としての認知を高める事業	次世代の担い手となる子供・青少年たちへ、芸術文化の多様な創造活動を体験する機会を提供し、創造性に満ちた豊かな感性の育成を目指す事業
<b>【伝統芸能】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京発・伝統WA感動 伝統芸能公演</li> <li>・東京発・伝統WA感動 東京大茶会 2014</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京発・伝統WA感動 キッズ伝統芸能体験</li> <li>・パフォーマンスキッズ・トーキョー</li> <li>・TACT/FESTIVAL 2014</li> <li>・青少年のための舞台芸術体験プログラム</li> <li>・Museum Start あいうえの</li> </ul>
<b>【演劇】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・芸劇セレクション</li> </ul>	<p>アーティストと市民が協働するプログラムをまちなかで展開するとともに、創造型 NPO 等と協働し、教育、環境など他分野と連携しながら、地域の文化創造拠点を生み出す事業</p>
<b>【音楽】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Music Weeks in TOKYO 2014</li> <li>・プレミアムコンサート～未来へのハーモニー～</li> <li>・サウンド・ライブ・トーキョー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京アートポイント計画</li> </ul>
<b>【美術・映像】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京アートミーティング</li> <li>・恵比寿映像祭</li> </ul>	<p>「世界的な文化創造都市・東京」を国内外にアピールするとともに、国内外の関係者が東京に集うプログラムや事業を展開し、ネットワークを強化する事業</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際会議「文化の力・東京会議 2014」</li> <li>・国際招聘プログラム</li> </ul>

(2) 東京文化発信プロジェクト全体

2 評価の手法

(1) フロー図



(2) 各事業の評価

① 評価者

外部評価者は下表のとおりである（五十音順）。

氏名	役職（評価当時）
岩瀬 潤子	慶応義塾大学デジタルメディア・コンテンツ総合研究機構（DMC）教授
大西 泰輔	財団法人軽井沢大賀ホール常任理事 支配人
苅宿 俊文	青山学院大学ヒューマンイノベーション研究センター教授
柴田 克彦	音楽ライター
芹沢 高志	P3 art and environment エグゼクティブ・ディレクター、AAF 事務局長
曾田 修司	跡見学園女子大学教授
長田 謙一	名古屋芸術大学大学院美術研究科／美術学部教授
久野 敦子	公益社団法人企業メセナ協議会プログラム・ディレクター
丸茂 美恵子	日本大学芸術学部演劇学科教授
村井 良子	PLANNING LAB. LTD. 代表取締役
山崎 篤典	島根県立いわみ芸術劇場名誉館長
渡辺 弘	公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団業務執行理事兼事業部長

② 評価の視点

目標	視点
<p>1 世界的なフェスティバルの開催を通じて、東京における芸術文化の創造活動の拡充を図るとともに、国際的な創造・交流拠点としての認知を高める事業</p>	<p>1 事業の内容 2 芸術文化活動を支える人材の育成 3 運営体制 4 広報 5 集客 6 協力・支援の確保 7 その他 8 総括</p>
<p>2 次世代の担い手となる子供・青少年たちへ、芸術文化の多様な創造活動を体験する機会を提供し、創造性に満ちた豊かな感性の育成を目指す事業</p>	<p>1 事業の内容 2 芸術文化活動を担う人材の育成 3から8まで 目標1と同じ</p>
<p>3 アーティストと市民が協働するプログラムをまちなかで展開するとともに、創造型NPO等と協働し、教育、環境など他分野と連携しながら、地域の文化創造拠点を生み出す事業</p>	<p>1 事業の内容 2 パートナーとなる団体の育成 3 広報 4から6まで 目標1の6から8と同じ</p>
<p>4 「世界的な文化創造都市・東京」を国内外にアピールするとともに、国内外の関係者が東京に集うプログラムや事業を展開し、ネットワークを強化する事業</p>	<p>1から8まで 目標1と同じ</p>

## 東京文化発信プロジェクト 全体評価

### 【評価の視点】

目標	視点
世界的なフェスティバルの開催を通じて、東京における芸術文化の創造活動の拡充を図るとともに、国際的な創造・交流拠点としての認知を高める事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャンル</li> <li>・手段(質が高く独自性のある国際芸術フェスティバルや文化イベントの開催)</li> <li>・発信(広報、プロモーション)</li> <li>・社会的インパクト</li> </ul>
次世代の担い手となる子供・青少年たちへ、芸術文化の多様な創造活動を体験する機会を提供し、創造性に満ちた豊かな感性の育成を目指す事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャンル</li> <li>・手段(本物の芸術文化・アーティストに触れる機会の提供)</li> <li>・発信(広報、プロモーション)</li> <li>・社会的インパクト</li> </ul>
アーティストと市民が協働するプログラムをまちなかで展開するとともに、創造型NPO等と協働し、教育、環境など他分野と連携しながら、地域の文化創造拠点を生み出す事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャンル</li> <li>・手段(アーティストと市民が協働するアートプログラムを、まちなかで他分野とも連携しながら実施)</li> <li>・発信(広報、プロモーション)</li> <li>・社会的インパクト</li> </ul>
「世界的な文化創造都市・東京」を国内外にアピールするとともに、国内外の関係者が東京に集うプログラムや事業を展開し、ネットワークを強化する事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャンル</li> <li>・手段(国内外へのアピール度が高く、関係者が東京に集うプログラム等の展開)</li> <li>・発信(広報、プロモーション)</li> <li>・社会的インパクト</li> </ul>
総括	事業全体の成果と課題、課題に対応するために今後行う取組

## 【評価】

成 果	<p>○伝統文化、演劇、音楽、美術、映像など、多様な分野で事業を展開し、4つの目標実現に向けて、着実に成果を挙げた。</p> <p>○フェスティバル分野では、「伝統芸能公演」において、人間国宝が一堂に会した質の高い公演から、伝統芸能に馴染みのない層へのアプローチとして初心者向けの体験ワークショップや鑑賞プログラムを多数開催し、観客の裾野拡大を図った。「東京大茶会」は、1964年東京オリンピック・パラリンピック50周年記念事業として実施し、2020東京大会に向けた気運の醸成を図った。</p> <p>○キッズ・ユース分野では、「キッズ伝統芸能体験」において、中・高校生コースや、これまでの参加者を対象とした修了生コース、地域に密着した夏休み期間中の短期プログラムを拡充・実施し、「パフォーマンスキッズ・トーキョー」とともに、子供たちが本物の芸術を体験できる貴重なプログラムとして常に高い評価を得ている。</p> <p>○アートポイント計画では、継続実施している「TERATOTERA」などに加え、8つの新規プロジェクトを開始し、「アートプログラム」と「人材育成プログラム『Tokyo Art Research Lab』」を2つの柱として実施した。『Tokyo Art Research Lab』では、アートプロジェクトの担い手の育成を目指した3年制の「思考と技術と対話の学校」を開設した。</p> <p>○ネットワーキング事業では、東京・ベルリン友好都市提携20周年記念事業と位置付けた「文化の力・国際会議」を国際招聘プログラムと同時期に実施する等、効率化を図り、更なる交流の促進によるネットワークの形成を図ることができた。</p>
課 題	<p>○プログラムによっては認知度の高まっているものもあるが、国内への発信はもとより、海外への発信力はまだ不十分であり、多様な媒体を活用し、更なる戦略的な広報に取り組んでいく必要がある。</p> <p>○フェスティバル分野では、回数を重ねることにより、都民の間に定着しつつある事業もあるが、更なる魅力の発信と発展的な継続に取り組んでいくことが必要である。</p> <p>○キッズ・ユース分野では、既存のプログラム内容の充実を図りながら、より身近で参加しやすいプログラムを構築していく必要がある。</p> <p>○アートポイント計画では、新規事業が同時に多数立ちあがったため、それぞれの課題設定と定期的な進捗確認、検証が必要である。</p> <p>○ネットワーキング事業では、一過性の事業にならないよう、その後の更なる交流の促進によるネットワークの形成を図っていくことが課題である。</p>

今後の取組	<p>○7年間の実績をふまえて、オリンピック開催も見据えながら、個々のプログラムについても見直しを行い、内容を充実させ、更に効果的な事業展開ができるよう取り組む。</p> <p>○オリンピック文化プログラムも視野に入れて、戦略的に事業を展開していく。</p> <p>○プロジェクト全体の発信力をより高めるため、国内外の様々な媒体を活用し、更に効果的な広報を展開していく。</p> <p>○フェスティバル分野では、一流の実演家やアーティストを起用した本格的な公演を開催するとともに、誰もが気軽に参加・体験することができるプログラムの充実、独自性のある取組等を行い、観客の裾野の拡大を図っていく。</p> <p>○キッズ・ユース分野では、これまでの事業実績を踏まえ、事業内容を工夫し、より多くの子供たちが参加しやすいプログラムを提供していく。また、各分野の将来的な担い手や事業を担うアーティスト、スタッフなど、人材の発掘・育成も視野に入れて事業を実施していく。</p> <p>○アートポイント計画では、新規に参画したNPOの年間目標を意識し、評価シートを開発、運用していき、定期的なコミュニケーションをとり情報を共有する。</p> <p>○ネットワーキング事業では、これまで以上に国内外の文化・芸術関係者と交流を図り、ネットワーク構築を推進していく。</p>
-------	---

<b>事業名</b>	<b>東京発・伝統WA感動 伝統芸能公演</b>	<b>事業開始</b>	平成21年度
<b>政策目標</b>	世界的なフェスティバルの開催を通じて、東京における芸術文化の創造活動の拡充を図るとともに、国際的な創造・交流拠点としての認知を高める事業	<b>ジャンル</b>	伝統芸能
<b>事業のねらい</b>	長い歴史の中で生まれ、江戸・東京で受け継がれ発展させてきた伝統的な邦楽・日本舞踊・寄席芸などを、固定客層に対してだけでなく若い層や馴染みのない層も取り込み広く普及させるとともに、新しい創造を促し、日本独自の文化として世界に発信していく。		
<b>内容</b>	<p>平成26年度は、国立劇場大劇場等で開催し、多様なジャンルの伝統芸能を幅広く展開するフェスティバルとして実施した。</p> <p>【開催日及び会場】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 伝統芸能 八王子車人形の世界平成26年8月29日（金）/八王子市芸術文化会館（いちようホール）・小ホール</li> <li>2. 和の魅力発見シリーズ Traditional+（トラディショナルプラス）【vol.5】Voice Surfing 声の系譜 平成26年9月7日（日）/スパイラルホール（スパイラル3F）</li> <li>3. 日本の伝統芸能×ストリートダンス Part 2 平成26年9月27日（土）/スパイラルホール（スパイラル3F）</li> <li>4. 大江戸寄席と花街のおどり その四 平成26年10月5日（日）/東京国際フォーラム ホールC</li> <li>5. 日本の笑いー古典と現代 平成26年10月7日（火）/国立能楽堂</li> <li>6. 能～伝統の発見～ 平成26年10月13日（月・祝）/十四世喜多六平太記念能楽堂（喜多能楽堂）</li> <li>7. 至高の芸、そして継承者～狂言 平成26年10月28日（火）/国立劇場 大劇場</li> <li>8. 日本舞踊と邦楽による道成寺の世界ー人間国宝と若き俊英の競演ー 平成26年11月1日（土）/国立劇場 小劇場</li> <li>9. 第15回多摩川流域郷土芸能フェスティバル 平成26年12月7日（日）/狛江エコルマホール</li> </ol> <p>【来場者数】 4,952人</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<p>●「和の心を次世代に継承していく」ことを目的としているが、演目や出演者、演出、公演テーマ等様々な形でお客様に提示することができた。</p> <p>●プロジェクトの政策目標を柱に伝統芸能等に若い層や馴染みのない層の取り込みに成功し広く普及を図った。</p> <p>●新しい創造を促し、日本独自の文化として世界に発信していくとともに、東京2020オリンピック、その先に向けての地盤をより堅固にした。</p>	<p>■「東京発・伝統WA感動」としては今年度で一区切りとなり、当初の事業目的としては一定の成果を残すことができた。</p> <p>■今後はこれまでの経験を活かし新しい取り組みに目をむけていくこと。</p> <p>■新体制の中で伝統芸能公演の質を維持していくこと。</p>	<p>区部及び多摩地域において、それぞれ公募企画を実施するなど、特色ある事業を実施することができた。多様なジャンルの伝統芸能を広く取り上げ、普段馴染みのない方にも親しんでもらえる内容になった。引き続き、若者や外国人など新たな観客層の獲得に向けてプログラムを充実させていく。</p>



事業名	東京発・伝統WA感動 東京大茶会2014	事業開始	平成20年度
政策目標	世界的なフェスティバルの開催を通じて、東京における芸術文化の創造活動の拡充を図るとともに、国際的な創造・交流拠点としての認知を高める事業	ジャンル	伝統芸能
事業のねらい	日本の茶文化についての理解と親しみを深め、今後の茶文化の継承発展と普及に努めるとともに、日本の代表的な伝統文化として観光を含めた海外発信を図る。		
内容	<p>和の心、茶の心を都民はじめ、東京を訪れる外国人や多くの方にも楽しんでもらうことを目的として、伝統文化・芸能の魅力を国内外に向けてアピールし、その普及と活性化を図る「東京発・伝統WA感動」事業のプログラムの一つとして実施。平成26年度は、1964年東京オリンピック・パラリンピック50周年記念事業として、江戸東京たてもの園(9月27日～28日)と、浜離宮恩賜庭園(10月11日～12日)の2か所で開催した。</p> <p>様々な流派による伝統的な茶席や野点のほか、2人1組でお茶を点てることから体験できる「茶道はじめて体験」や英語で解説をする「イングリッシュ野点」、子供向けに「子供のための茶道教室」、高校生による「高校生野点」を実施。江戸・東京の粋な文化を紹介するお店が立ち並び、日本の伝統文化を楽しんでもらうステージイベントを設けるなどの工夫を凝らし、誰でも気軽に参加できる事業となった。</p> <p>【開催日及び会場】9月27日、28日/ 江戸東京たてもの園 10月11日、12日/ 浜離宮恩賜庭園</p> <p>【来場者数】 30,400人</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> <li>●歴史的建造物がある江戸東京たてもの園や、文化財である浜離宮恩賜庭園を使用し、過去最大数の来場者を記録し、参加者に茶文化の魅力をPRできた。</li> <li>●様々なメディアに取り上げられ、「気軽に楽しめる茶会」をPRすることができた。</li> <li>●来場者数が年々増えており、継続していくことで、確実に広がっていることを実感することができた。</li> <li>●外国人も和やかに前を点前を楽しんでおり、海外への発信として意義のある取組ができていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■来場者が増加しているのをより安全面に配慮した運営体制を強化すること。</li> <li>■初心者でも気軽に参加できる茶会であることを更にアピールすること。</li> <li>■外国人に対し、お茶の文化をどのように理解させていくか。</li> <li>■広大な庭園で実施される本事業の危機管理体制への関心を高めること。</li> <li>■事業がマンネリ化しないように工夫すること。</li> </ul>	<p>子供や外国人の方々にも日本の伝統文化に触れることができるよう、流派を超えた茶席を設けるなど、質、構成ともに充実したプログラムを展開し、「茶文化」の魅力をPRすることができた。引き続き、事業内容の充実を図り、より多くの参加者にお茶の文化の魅力を発信していく。</p>

<b>事業名</b>	<b>芸劇セレクション</b>	<b>事業開始</b>	平成21年度
<b>政策目標</b>	世界的なフェスティバルの開催を通じて、東京における芸術文化の創造活動の拡充を図るとともに、国際的な創造・交流拠点としての認知を高める事業	<b>ジャンル</b>	演劇
<b>事業のねらい</b>	若手アーティストの育成、東京芸術劇場が自らプロデュースし、作品を創造発信する事業、海外のアーティストとの共同制作、そして海外からの良質な作品の招聘上演といった、多岐にわたるプログラムを実施し、当劇場の存在を国内外にアピールする。		
<b>内容</b>	<p>若手支援は、今後の東京の演劇シーンを担うことが期待できるアーティストに、更なる活躍を促すことを目的として実施した。創造発信事業は、企画性に富み、東京の現代演劇の面白さを世界にアピールできるような作品の創造を行い、展開した。国際創造発信普及事業は、海外との演劇を通じた交流を目的として韓国の明洞芸術劇場と国際共同制作を行った。</p> <p>【開催日及び会場】</p> <p>1. 若手支援 「勅使川原三郎 U18WS プロジェクト(ビヨンド含む)」平成26年8月30日(土)～12月6日(土)全14回 発表公演:12月20日(土)～21日(日)全2公演、「ストリートアーティストアカデミー」平成26年6月3日(火)～7月24日(木)、11月4日(火)～12月25日(木)、「自作自演」平成26年12月22日(月)、25日(木)、27年2月2日(月)全3公演、「朗読東京」平成27年1月7日(水)～1月9日(金)全3公演</p> <p>2. 創造発信事業 「小指の思い出」平成26年9月29日(月)～10月13日(月)全15公演、「ポリグラフ」平成26年10月19日(日)～11月2日(日)全16公演 「狂人なおもて往生をとぐ」平成27年2月10日(火)～2月26日(木)全20公演</p> <p>3. 国際創造発信普及事業 「半神」平成26年10月24日(金)～10月31日(金)全8公演</p> <p>【来場者数】 20,752人</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> <li>●海外の劇場やカンパニーとのネットワークや関係も拡大しており、更にその関係性を深め広げていく。</li> <li>●アーツアカデミーの研修生を現場の制作スタッフとして関与させたことは、人材の教育機会として貴重であった。</li> <li>●若手アーティストの積極的な起用は大きな注目となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■演劇の海外作品、海外の俳優による作品は言葉の問題もあり集客が厳しい傾向にある。</li> <li>■安定したチケット収入のため広報を強化していくのはもちろん、劇場としても公演のみでなく普及・教育活動なども含め多角的に取り組んでいることをアピールしていくことが重要。</li> <li>■ワークショップの参加募集のための広報活動の拡充。</li> </ul>	<p>様々なテーマ性を持った企画を展開し、東京の舞台芸術の幅広さを示すとともに、東京芸術劇場ならではの公演を実施した。また、若手アーティストを積極的に起用したことで、人材の育成に寄与した。今後は、安定した集客を図るために広報を強化していくとともに、運営体制の充実を図っていく。</p>

<b>事業名</b>	<b>Music Weeks in TOKYO 2014</b>	<b>事業開始</b>	平成22年度
<b>政策目標</b>	世界的なフェスティバルの開催を通じて、東京における芸術文化の創造活動の拡充を図るとともに、国際的な創造・交流拠点としての認知を高める事業	<b>ジャンル</b>	音楽
<b>事業のねらい</b>	世界的な音楽都市である東京でこそできる音楽文化の活性化、創造力の向上を目指し、「創造性」を柱とした「参加型」の事業を展開。併せて、次世代をリードする世界に通用するアーティストの養成を目指す。		
<b>内容</b>	<p>【メイン公演】 小曾根真&amp;アルトウーロ・サンドヴァル“Jazz meets Classic” with 東京都交響楽団（2公演：10/24 東京芸術劇場、10/25 オリンパスホール八王子）、特別企画「小曾根真ワークショップ 自分で見つける音楽 Vol.2」（12/9 よみうり大手町ホール）</p> <p>【プラチナ・シリーズ】（5公演：東京文化会館）</p> <p>【まちなかコンサート】スペシャル（2公演：東京文化会館）芸術の秋、音楽さんぽ（28公演：都内各所）、まちなかファンファーレ（2公演：東京国際フォーラム）、まちなかステーションライブ（4公演：JR上野駅構内）</p> <p>【ミュージック・エデュケーション・プログラム】コラボレーション・プログラム（1公演：2/21 ワークショップ 東京文化会館） 国際連携企画～カーザ・ダ・ムジカ～（12/4-3/9：東京文化会館、東京芸術劇場、文京シビックセンター、台東区幼稚園、カーザ・ダ・ムジカ内スタジオ）</p> <p>【ボーダレス・プログラム】（1公演：マウントレーニアホール渋谷 プレジャープレジャー）</p> <p>【東京都民間オーケストラ教育プログラム】（17公演：オリンパスホール八王子他）</p> <p>【来場者数】 21,477人</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> <li>●各事業が定着・認知されたと感じた。</li> <li>●ファシリテーターの発掘と育成も国内外に発信し、エデュケーション事業の先駆けとして大きく展開することができた。</li> <li>●ビッグアーティストと並んで新進アーティストを起用しており、人材の育成に寄与した。</li> <li>●完売公演が続く等、効果的な広報を行った。注目度、動員力の高い企画やプログラムであったため、総入場者数は目標を大きく上回る事ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■単年度事業として開催するため長期的な企画立案や早期のアーティスト決定が不可欠であること。</li> <li>■「フェスティバル」としての認知度を高めるためには、内容の一層の充実と予算・人員の確保が必須である。</li> <li>■エデュケーション・プログラムをけん引する優秀なファシリテーターの確保が必要である。</li> </ul>	<p>注目度、動員力の高い企画を実施し、多くの来場者に音楽に親しむ機会を創出するとともに、世界的なアーティストから新進アーティストまで幅広く起用し、人材の育成にも寄与した。今後は、さらに「フェスティバル」としての認知度を高めるため、プログラム内容の充実を図っていく。</p>

<b>事業名</b>	プレミアムコンサート～未来へのハーモニー～	<b>事業開始</b>	平成24年度
<b>政策目標</b>	世界的なフェスティバルの開催を通じて、東京における芸術文化の創造活動の拡充を図るとともに、国際的な創造・交流拠点としての認知を高める事業	<b>ジャンル</b>	音楽
<b>事業のねらい</b>	子供から大人まで幅広い人々がクラシック音楽を身近に感じられるよう、「首都東京の音楽大使」である東京都交響楽団による観客参加型のコンサートを、多摩・島しょ地域などを含む都内各所で展開し、東京の音楽文化の発信に寄与する。		
<b>内容</b>	<p>東京の音楽文化の発信に寄与することを目的として、「首都東京の音楽大使」である東京都交響楽団が、多摩地域での10公演（オーケストラ公演6、アンサンブル公演4）、島しょ地域の大島、三宅島での4公演（アンサンブル公演）を実施。</p> <p>【開催日及び会場】6月～27年2月(全14公演)</p> <p>ルネこだいら、福生市民会館、オリンパスホール八王子、大島町開発総合センター、大島(元町保育園、北の山保育園、波浮保育園)、日の出町立平井中学校体育館、八丈町立三根小学校体育館、八丈町多目的ホール「おじゃれ」、桧原村やすらぎの里、奥多摩文化会館、瑞穂町スカイホール、日野市民会館、小金井市民交流センター、府中の森芸術劇場</p> <p>【来場者数】 6,910人</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> <li>●クラシック公演の少ない多摩・島しょ地域各所で実施することで本格的なコンサートを楽しんで頂く機会を提供できた。</li> <li>●すべての公演で観客参加・体験型のプログラムを取り入れる等、普通のクラシックコンサートとは違う形で音楽を身近に感じていただいた。</li> <li>●観客参加・体験型のプログラム導入、楽曲解説を挟んだ構成等、他のクラシックコンサートとは違う形で音楽を身近に感じてもらえたことは愛好者の増加に繋がる大きな成果であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■会場の周辺地域まで広く事業を周知し、より多くの方が参加・体験をできるようにする必要がある。</li> <li>■広報の一層の充実。</li> <li>■体験型の企画で、体験希望者全員が体験できないケースもあり、その告知方法等を再考すべきである。</li> </ul>	<p>観客参加・体験型のプログラムの導入や楽曲解説を交えた構成等、他のクラシックコンサートとは違う形で音楽を身近に感じてもらえるような企画を提供した。今後は、地域事情を把握しているホール側と密接なコミュニケーションを図り、より確実な集客を図っていく。</p>

<b>事業名</b>	<b>サウンド・ライブ・トーキョー</b>	<b>事業開始</b>	平成24年度
<b>政策目標</b>	世界的なフェスティバルの開催を通じて、東京における芸術文化の創造活動の拡充を図るとともに、国際的な創造・交流拠点としての認知を高める事業	<b>ジャンル</b>	音楽
<b>事業のねらい</b>	音楽及び「サウンド」に関わる先鋭的な表現活動をジャンル横断的・国際的に紹介し、東京の文化発信力とハブシティとしてのキャパシティを示す。		
<b>内容</b>	<p>音楽や「サウンド」に関する重層的な体験となることを狙い、世代、表現スタイルが全く異なり、かつそれぞれのジャンルで高い達成度を示しているアーティストが出演・参加する、密度の高いイベントを実施した。</p> <p>【開催日及び会場】 期間:平成26年11月5日(水)～12月28日(日)</p> <p>参加アーティスト:マイケル・スノウ、恩田晃、アラン・リクト、ケイス・ブルーム、工藤礼子、ローレン・コナーズ、灰野敬二、カール・テオドア・ドライヤー、Merzbow、山本雅史、Plum、野村洋祐、Miho Maruyama、中村達也、MURASAKI、吉原太郎、NOEL-KIT、ジム・オルーク、畠山地平、町田良夫、柴山拓郎、CoH、クリストフ・シャルル、カール・ストーン、Small Wooden Shoe、dracom</p> <p>会場:WWW、SuperDeluxe</p> <p>【来場者数】 延 965 人</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> <li>●東京を代表するライブハウス2会場で実施し、普段とは異なるプログラムを展開し、会場の演目の多様化に貢献した。</li> <li>●公募プログラムで4組の新進若手アーティストを紹介した。</li> <li>●高水準で一貫性のあるテーマによるプログラムを展開し好評を得たこと。</li> <li>●過去公演に比して、音楽的・芸術的水準の一貫性を強くアピールできた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■演目の芸術的水準、専門家やコアリスナーの高い評価を維持しつつ、ジャンル外の関心系と接続するプログラムを組むこと。</li> <li>■集客数やメディア露出だけでなく、内容において事業の価値を評価してもらえ情報発信の環境を作ること。</li> <li>■当事業自体に興味を持ってもらうこと。</li> </ul>	<p>公募プログラムで4組の新進若手アーティストを紹介するとともに、海外と日本のアーティストのコラボレーションを中心としたプログラムを展開し、好評を得た。しかしながら、コアなファン層以外への浸透が難しいことから、平成26年度をもって事業終了。</p>

<b>事業名</b>	<b>東京アートミーティング</b>	<b>事業開始</b>	平成24年度
<b>政策目標</b>	世界的なフェスティバルの開催を通じて、東京における芸術文化の創造活動の拡充を図るとともに、国際的な創造・交流拠点としての認知を高める事業	<b>ジャンル</b>	美術 映像
<b>事業のねらい</b>	現代アートを中心に、音楽という異なる表現ジャンル、及びその他の専門領域が会うことで、新しいアートの可能性を提示する。		
<b>内容</b>	<p>今年度は「アートとパフォーマンス」をテーマに伝統芸能から儀礼、スポーツ、ダンス、演劇、現代アートのパフォーマンスまでを広く身体表現としてとらえ、これらとアートの関係、身体表現の歴史的な系譜をたどる。国内外の作家人(組)が出品。時間芸術を美術館空間でみせることの工夫も含めて、身体表現について検証する。展示空間でのパフォーマンスの実施、東京藝術大学でも講演などを行った。</p> <p>【開催日及び会場】新たな系譜学を求めて跳躍/痕跡/身体 9月27日～27年1月4日／東京都現代美術館</p> <p>【来場者数】 23,653人</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> <li>●伝統芸能と現代アートをつなぐ、身体表現の記憶をつなぐなど原点回帰的なメッセージが、文化関係者等から高く評価された。</li> <li>●狂言を全く知らない若い観客が高い関心を持ち始めるなど教育的成果があった。</li> <li>●新聞各紙で取り上げられ、内容のチャレンジ性、パフォーマンスのクオリティと創造性には高い評価があった。</li> <li>●他の美術館では取り組むことが少ないテーマに挑戦し東京の文化資源を発信する展示空間を創り上げたことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■展覧会より上演、ライブパフォーマンスへの関心のほうが高く、パフォーマンス事業は高い集客率だったが、展覧会入場者は目標の半分程度に留まった。</li> <li>■パフォーマンスの豊かな文化のある国から作家を招聘できなかったこと、若手を紹介できなかったこと。</li> <li>■タイトルのわかりづらさ等要因がいくつかあったが、入館者数が伸びなかったこと。</li> </ul>	<p>「アート・身体表現・パフォーマンス」をテーマに、伝統芸能と現代アート、身体表現の記憶をつなぐなどの、他の美術館では取り組むことの少ないテーマに挑戦し、東京の文化資源を発信する展示空間を創り上げた。今後は、タイトルや展覧会内容をわかりやすくすることに努め、より一層集客を図っていく。</p>

<b>事業名</b>	<b>恵比寿映像祭</b>	<b>事業開始</b>	平成20年度
<b>政策目標</b>	世界的なフェスティバルの開催を通じて、東京における芸術文化の創造活動の拡充を図るとともに、国際的な創造・交流拠点としての認知を高める事業	<b>ジャンル</b>	美術 映像
<b>事業のねらい</b>	映像文化の創造、発信及び継承活動の活性化を促進し、文化発信拠点としての東京都及び東京都写真美術館の存在感をアピールする。		
<b>内容</b>	<p>毎年、国内外の作家・作品、ゲストの参加により構成される映像とアートの国際的なフェスティバル。今年度は、「惑星で会いましょう」を総合テーマに、展示、上映、オフサイト展示、ライブ、シンポジウム、トークなどを複合的に実施した。</p> <p>東京都写真美術館の改修休館にともない、恵比寿周辺地域の諸施設(ザ・ガーデンホール/ルーム、恵比寿ガーデンプレイスセンター広場、日仏会館ほか)及び地域連携プログラム参加諸施設を会場とし、10日間の開催とした。</p> <p>【開催日】平成27年2月27日(金)～3月8日(日)</p> <p>内容:展示、オフサイト・展示、上映(9プログラム)、ライブ・イベント、シンポジウム、レクチャー、ラウンジ・トーク、地域連携プログラム等</p> <p>【来場者数】 29,904人</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> <li>●東京都写真美術館休館のため、館を使用することができない中で地域の方々に様々な形で答えていただくことで実現することができた。</li> <li>●質の高い多彩な企画を携えられたことで映像文化とアートの発信地としての東京と東京都写真美術館の存在感をアピールすることができた。</li> <li>●アーティストの紹介という点では、新しい視点での紹介になっていた。</li> <li>●平日でも絶えず集客が良かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■集客向上のために SNS 等のメディアを活用し、更に露出を増やすべきである。</li> <li>■映像祭開催時期だけではなく、通年体制での広報の仕組み作り。</li> </ul>	<p>東京都写真美術館の改修により周辺施設を利用しての開催となったが、質の高い多彩なプログラムを展開することができ、映像文化とアートの発信地としての東京と東京都写真美術館の存在感をアピールすることができた。今後も、各会場の特性をさらに活かしたプログラムを実施し、効果的にアピールしていく。</p>

<b>事業名</b>	<b>東京発・伝統WA感動 キッズ伝統芸能体験</b>	<b>事業開始</b>	平成20年度
<b>政策目標</b>	次世代の担い手となる子供・青少年たちへ、芸術文化の多様な創造活動を体験する機会を提供し、創造性に満ちた豊かな感性の育成を目指す事業	<b>ジャンル</b>	伝統芸能
<b>事業のねらい</b>	子供たちが伝統文化を直接、深く体験することで、伝統芸能の世界に触れ、感性を涵養する機会を提供する。このことにより子供たち、ひいては家庭内の伝統芸能に関する興味関心や感性を高め、今後の伝統芸能の継承と発展を支える観客層等の充実を図る。		
<b>内容</b>	<p>能楽・長唄・三曲・日本舞踊の一流の芸術家が子供たちを直接指導し、その成果をひのき舞台上で発表した。能楽、長唄、三曲、日本舞踊の4つの領域で、小・中学生・高校生を対象に能楽2、長唄6、三曲5、日本舞踊4の全17コースを実施した。長期プログラムでは中学生・高校生のみを対象としたユース特別コース、過去に当事業を体験した子供を対象とした修了生コースを追加するほか、地域に密着した夏休み期間中の短期プログラムを実施。</p> <p>【開催日及び会場】</p> <p>①キッズ伝統芸能体験 長期プログラム お試し体験 7月5日・6日 各2回計4回、開講式 8月24日  稽古期間 9月1日～平成27年3月22日 17コース(16回または10回)、リハーサル 3月7日(能楽)・3月25日(長唄)・26日(日本舞踊・箏曲・尺八)、発表会 3月15日(能楽)・3月27日(長唄・三曲・日本舞踊、2部制)</p> <p>②キッズ伝統芸能体験 短期プログラム。  実施期間 7月27日～8月7日 2コース稽古6回</p> <p>③キッズ伝統芸能体験～ユース特別版・次世代リーダー育成道場  都立大江戸高等学校 4月16日～平成27年3月4日 箏の実技指導(全29回+発表日2回)、国立能楽堂 8月24日 日本の伝統・文化学習(能楽体験)</p> <p>【参加者数・鑑賞者数】 988人(事業参加者)、2,260人(発表会)</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> <li>●幅広い伝統芸能のジャンルを扱うことで伝統芸能のあり方を総合的に示す事業として有意義である。</li> <li>●中・高校生というこれまで伝統芸能に縁遠かった層の取り込みが出来ている。</li> <li>●修了生コース、ユース特別コースを新設するとともに、短期プログラムを新たに実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■事業が多様化し、運営上の負担が増大している。</li> <li>■稽古や発表会にふさわしい環境。会場の確保は恒常的な課題である。</li> <li>■当該事業が地域にとって魅力的な事業であることを理解してもらうなど新たな協力施設への働きかけが必要。</li> <li>■コースが増えたことにより、広報チラシの内容をわかりやすくする工夫が必要。</li> </ul>	<p>ユース特別コース、修了生特別コース及び地域に密着した短期プログラムを新たに実施し、事業の充実を図った。今後は、コースが増えたため、より分かりやすい広報に努めるとともに、短期プログラムの新規実施施設の開拓を行っていく。</p>



<b>事業名</b>	パフォーマンスキッズ・トーキョー	<b>事業開始</b>	平成20年度
<b>政策目標</b>	次世代の担い手となる子供・青少年たちへ、芸術文化の多様な創造活動を体験する機会を提供し、創造性に満ちた豊かな感性の育成を目指す事業	<b>ジャンル</b>	演劇
<b>事業のねらい</b>	ダンスや演劇を通じた、子供たちの自主性・創造性・コミュニケーション能力の向上を図る。		
<b>内容</b>	<p>ダンスや演劇、音楽などの分野で活動するプロのアーティストを、都内の小中学校やホール・文化施設、児童養護施設に派遣。10日間程度のワークショップを行い、子供たちが主役のオリジナルの舞台作品をつくりあげる。最後に発表公演を行い、地域や教育・文化各方面の多くの人たちにワークショップの成果を発信する。</p> <p>【開催日及び会場】 学校 / 5月～27年3月 / 都内小学校(10校)  島しょ部 / 7月～11月 / つばき小学校(大島)、さくら小学校(大島)  ホール / 7月～27年3月 / 都内施設(5か所)  児童養護施設 / 9月～27年3月 / 若草寮(渋谷区)、クリスマス・ヴィレッジ(足立区)、子供の家(清瀬市)  【参加者数等】 観客数 5,308人 / 参加者数 733人</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1年間で延べ200日間におよび都内各地でアートと子供が出会う機会を提供できた。質が高く本事業の目的である、子供たちの自主性、創造性、コミュニケーション能力の向上などの点において大きな成果をあげた。</li> <li>● 子供たちのみならず、保護者、家族、学校教員、施設職員等にアートやアーティストの力を感じさせ、貴重な経験となっている。また、アート関係者、教育関係者等多くの人たちに本事業の意義を発信することができた。</li> <li>● 児童の参加人数、観覧人数とも年度当初の計画をほぼ達成することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事業の認知度は確実に高まっているが、より広い範囲の人達への告知及びPRが必要である。</li> <li>■ 人材に関しては、現場での経験を積み重ねるに従い確実に育ってきているので、育った人材が活躍できる次のステージを考える。</li> <li>■ 席数が多く満員にすることが困難なホールや、逆に席数が足りないホールがあったので、事業に応じたホール検討が必要。</li> </ul>	<p>事業の目的である、子供たちの自主性、創造性、コミュニケーション能力の向上などの点において、大きな成果をあげた。また、子供たちだけでなく、文化関係者や家族、教員など関係者に対し、アートやアーティストの力を感じさせることができた。今後は、特別支援学校での実施など、より広い範囲を対象に事業を展開していく。</p>

<b>事業名</b>	TACT/FESTIVAL 2014	<b>事業開始</b>	平成22年度
<b>政策目標</b>	次世代の担い手となる子供・青少年たちへ、芸術文化の多様な創造活動を体験する機会を提供し、創造性に満ちた豊かな感性の育成を目指す事業	<b>ジャンル</b>	演劇
<b>事業のねらい</b>	子供だけでなく大人が鑑賞しても楽しめる質が高く独自性がある海外の舞台作品を招聘、上演し、上質な舞台芸術に触れる機会を提供する。		
<b>内容</b>	<p>海外から招聘した一流の劇団による演劇の舞台公演や、ワークショップ等を実施した。</p> <p>【開催日及び会場】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カミーユ・ボワテル「リメディア～いま、ここで」/5月3日～6日全4回公演/東京芸術劇場</li> <li>・ズィメルマン エド・ペロ「ハンズはハイリ～どっちもどっち?!」/5月9日～11日全3回公演/東京芸術劇場</li> <li>・劇団コープス「夢見るための50の方法」/5月9日～11日全3回公演/東京芸術劇場</li> <li>・劇団コープス「ひつじ」/5月9日～11日全3回公演/東京芸術劇場</li> <li>・劇団 B-Floor「ユーディの冒険」、ワークショップ/5月9日～11日全3回公演/東京芸術劇場</li> </ul> <p>【参加者数】 5,558人</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> <li>●フェスティバルとして4団体を招聘し、ある程度の催し物を同時期に開催できたことと開催日程を調整し回遊性を高めたことは成果である。</li> <li>●親子というターゲット層に向け、安価に抑えたセット券を用意する等、集客を増やしフェスティバルとして定着するような素地は出来つつあり、海外の良質な舞台を招聘するというフェスティバルの主旨も着実に認知してきていると言える。</li> <li>●有料と無料公演の組み合わせでより広い世代の観客にアピールしていること、アジアのカンパニーも加わり文化の多様性にも明確な配慮がなされていることで事業のねらいが十分に実現されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■海外の招聘公演における安定した券売のために、様々なメディアやツールを駆使した広範な広報活動を強化していく必要がある。</li> <li>■親子向けのフェスティバルとしての認知も高めていく必要がある。</li> <li>■優良な舞台作品を継続して上演するなど、集客が見込まれる取組が重要であり、また様々なメディアを駆使した広報活動の強化が必要である。</li> </ul>	<p>ゴールデンウィークに開催される親子向けのフェスティバルとして認知度が高まりつつある。今後は、子供だけでなく大人が楽しめるという側面をアピールする広報を充実させるとともに、親子向けのフェスティバルとしての認知度を高めていく。</p>

<b>事業名</b>	<b>青少年のための舞台芸術体験プログラム</b>	<b>事業開始</b>	平成21年度
<b>政策目標</b>	次世代の担い手となる子供・青少年たちへ、芸術文化の多様な創造活動を体験する機会を提供し、創造性に満ちた豊かな感性の育成を目指す事業	<b>ジャンル</b>	演劇 音楽
<b>事業のねらい</b>	若い世代が舞台芸術に対する興味や理解を深め、芸術分野の人材育成を行うための事業		
<b>内容</b>	<p>教育普及事業の一環として音楽家が学校に出向いて行うアウトリーチ・コンサート及びワークショップを都内小学校で実施した。また、自らが出演する等、舞台芸術により深く関わるワークショップ「オペラをつくろう！」では、東京文化会館主催公演 オペラ BOX『ヘンゼルとグレーテル』と連動したワークショップを実施した。</p> <p>【開催日及び会場】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップ「オペラをつくろう！」7月22日～11月8日（児童合唱）、8月2日～3日（工作）、8月31日（成果発表）</li> <li>・アウトリーチ・コンサート 6月～11月（計19校22回）</li> <li>・アウトリーチワークショップ <ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめての楽しいコンサート 平成27年1月31日 東京文化会館</li> </ul> </li> <li>・ワークショップクリニック クリニック3校、ワークショップ 9校</li> </ul> <p>【参加者数等】 9,491人</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> <li>●事業全体への応募は定員を超え、大きな手ごたえとともに潜在的なニーズがあることを認識することができた。</li> <li>●ワークショップに参加した児童の保護者からは貴重な体験への感謝の言葉が多数届いた。</li> <li>●本事業の運営に関わった演奏家として実力のある入賞者がファシリテーターとしても経験を積めることができた。</li> <li>●新進アーティストを起用し、育成している。またワークショップリーダーの育成にも積極的に取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■「オペラをつくろう！」のワークショップについては、多数の参加者への対応をよりスムーズに行うため、運営側の更なるスキルアップと人材の確保等安定した運営体制を構築する必要がある。</li> <li>■「アウトリーチ・コンサート」、「アウトリーチ・ワークショップ」に関しては、参加校が限定されることがないように幅広く実施し、より質の高い内容で提供していくことが重要である。</li> <li>■この企画を実施するために必要な人材を育成すること、更に企画力、専門的な知識も不可欠であること。</li> </ul>	<p>ワークショップでは貴重な体験ができたとの声が多く寄せられ、参加者にとって満足度の高い内容となるとともに、アーティストの成長にも繋がる良い企画となった。引き続き、アーティストやワークショップリーダー、スタッフの育成を図り、安定した運営を行っていく。</p>

<b>事業名</b>	Museum Start あいうえの	<b>事業開始</b>	平成25年度
<b>政策目標</b>	次世代の担い手となる子供・青少年たちへ、芸術文化の多様な創造活動を体験する機会を提供し、創造性に満ちた豊かな感性の育成を目指す事業	<b>ジャンル</b>	美術
<b>事業のねらい</b>	子供たち、特にミュージアムをこれまで利用していない子供たちや来館が困難な子供たちを対象に、「見る、聞く、話す、手を動かす、対話する」などの直接的な体験を通して、子供たちが主体的に文化資源と関わり合う環境づくりを、美術館や博物館といった館種を超えて推進する。		
<b>内容</b>	<p>【開催日及び会場】 / 東京都美術館ほか</p> <p>【学校向けプログラム】スペシャル・マンデー・コース 9月～27年3月、通常開室コース7月～27年3月</p> <p>【あいうえの学校(個人向けプログラム)】8月～27年2月</p> <p>【あいうえの日和(「ミュージアム・スタート・パック」の配布)】上野にある9つの施設を巡るための教育ツールを制作し、「あいうえの学校」などのプログラムの参加者に配布した。</p> <p>【ウェブサイト】上野にある9つの施設の情報を編集した特設ウェブサイトを運営。</p> <p>【参加者数】 4,607人</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> <li>●事業実施2年目は、前年度の実績を踏まえたコンテンツの改良と新規コンテンツの開発を行いながら、強固な運営体制を築くことができた。</li> <li>●連携する文化教育セクターとの連携を更に進めることとして、東京都美術館以外を活動の拠点とするプログラムを多く実施することができた。</li> <li>●広報面では、ウェブサイト的大幅な改変と質の向上を図るとともに、9館連携を意識したものとし、利用者にとって情報が伝わりやすくなるように改善した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■これまで以上に実質的な連携が深まるよう、継続的にプログラムや広報面での連携を目指す。</li> <li>■専用チラシを作成、配布したが、中高校生からの申し込みが少なかったため、更に効果的な広報を行う必要がある。</li> </ul>	<p>事業2年目を迎え、前年度の実績を踏まえたコンテンツの改良と運営体制の確立を図り、多くの参加者から好評を得ることができた。今後は、文化施設間の連携を意識した広報を継続するとともに、コンテンツ面でも実質的な連携を強め、「上野の杜の文化ゾーン」の発信力を高めていく。</p>

事業名	東京アートポイント計画	事業開始	平成21年度
政策目標	アーティストと市民が協働するプログラムをまちなかで展開するとともに、創造型NPO等と協働し、教育、環境など他分野と連携しながら、地域の文化創造拠点を生み出す事業	ジャンル	
事業のねらい	東京の様々な地域にある人・まち・活動をアートによって結ぶことで東京のさまざまな魅力を創造・発信することを目指す。都内各地に人・まち・活動の接点である「アートポイント」を作り出すことで、人々に新しい発見や創造の契機をもたらす。		
内容	<p>(1) 東京全体及びまちなかの多様な地域資源をアートで結び、その魅力をアートプロジェクトを通じて創造・発信していく「アートプログラム」(2) 都内各地で人・まち・活動をアートで結び、「アートポイント」を作り出していく人材を育成する「人材育成プログラム」の2つの柱により、複数の事業を展開した。</p> <p>【実施事業】(1) TERATOTERA、(2) 小金井アートフル・アクション!、(3) としまアートステーション構想、(4) アートアクセスあだち 音まち千住の縁、(5) 長島確のつくりかた研究所：だれかのみたゆめ、(6) 汐入タワープログラム、(7) ぐるぐるミックス、(8) Art Bridge Institute、(9) AKITEN、(10) トッピングイースト、(11) TOKYO FABBERS、(12) 三原色〔ミハライロ〕、(13) 「光の蘇生」プロジェクト-《Counter Void》再生をめぐる、(14) 東京迂回路研究、(15) 東京スープとブランケット紀行、(16) Tokyo Art Research Lab、(17) 東京都による芸術文化を活用した被災地支援事業 Art Support Tohoku-Tokyo</p> <p>【来場者数】 30,711人</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<p>●事業開始から6年目を迎え、継続事業では各事業でより成熟したプロジェクトが可能となり、各地で交流拠点が形成されつつある。</p> <p>●8つの事業がスタートし、新たなエリア・分野において基盤整備を行う1年となった。今年度のテーマとしていた福祉分野への着手、多摩・島しょ地域での拠点形成は順調なスタートを切った。</p> <p>●すべての新規事業で活動主旨を伝えるパンフレット、ウェブサイト、ドキュメント等、活動を広め伝えていくためのツールを作成した。</p>	<p>■多くの新規事業で当該計画において実施すべき事業内容を理解することに時間を要した。</p> <p>■新規事業については、立ち上げ年として組織作りに注力したため、事業の存在が見えにくかった。</p> <p>■Tokyo Art Research Labでスタートした「思考と技術と対話の学校」は、通年開催の事業は運営への負荷が高い。</p> <p>■それぞれの事業は特色があり同一の運営スタイルはとれないが、全てが健全な組織運営に取り組んでいくことが課題である。</p>	<p>継続事業では各事業ともより成熟したプロジェクトの実施が可能となり、各地で交流拠点が形成されつつある。人材育成プログラム「Tokyo Art Research Lab」では「思考と技術と対話の学校」を開設するなどの取り組みを行った。今後も、新規事業への支援を的確に行うとともに、「Tokyo Art Research Lab」のスクールの拡充を図り、各アートプロジェクトの現場に対応できる人材を育成していく。</p>

事業名	国際会議「文化の力・東京会議 2014」	事業開始	平成23年度
政策目標	「世界的な文化創造都市・東京」を国内外にアピールするとともに、国内外の関係者が東京に集うプログラムや事業を展開し、ネットワークを強化する事業	ジャンル	
事業のねらい	東京・ベルリン友好都市提携20周年記念事業として、ベルリンから2名のゲストを迎えるとともに、国内外の各都市からも専門家を招き、現代の都市においてフェスティバルを開催する意義とは何か、また、フェスティバルだからこそ生み出すことのできる新しい価値とは何か、また、都市においてフェスティバルはどのような意味を持ち、自治体の文化政策・事業には何が期待されるのかを議論した。		
内容	<p>【開催日及び会場】</p> <p>【本会議】</p> <p>開催日時:2014年11月7日(金)16:00~20:00</p> <p>会場:都庁都民ホール(東京都庁 都議会議事堂1階(東京都新宿区西新宿2-8-1))</p> <p>【2】事後会議</p> <p>開催日時:2014年11月8日(土)午後 13:00~14:30</p> <p>会場:ブリティッシュ・カウンシル(新宿区神楽坂1-2)</p> <p>【来場者数等】 延172人</p>		

成 果	課 題	今後の方向性
<p>●2011年から4年間に渡り「文化の力」に注目する国際会議を開催する中で、国内だけでなくソウル、ロンドン、ベルリンなどからゲストを招き議論を行ったことは、東京オリンピック・パラリンピックに向けてどのようなフェスティバルを東京で行うべきかという今後の大きな課題について様々な提案を提示することができたと考える。</p> <p>●東京オリンピック・パラリンピックに向けて、文化プログラムの軸となるフェスティバルについての考察を深める機会となった。</p>	<p>■一過性の会議を実施するのではなく、その後のネットワーク形成を確立すること。</p> <p>■文化フェスティバルは盛り上げるためのツールではなく、その後のネットワーク形成、文化資源につながるべきという先行事例を持つ国々からのアドバイスをどのように東京のフェスティバルに活かしていくのか。</p>	<p>東京・ベルリン友好都市提携20周年記念事業として、文化創造都市とフェスティバルのあり方を議論し、東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて意義のある会議となった。平成26年度をもって事業終了とし、新生アーツカウンシル東京の国際ネットワーク事業として、海外の芸術文化団体や文化施設とのネットワークを構築し、東京の芸術文化の発信力を高めていく。</p>

<b>事業名</b>	<b>国際招聘プログラム</b>	<b>事業開始</b>	平成23年度
<b>政策目標</b>	「世界的な文化創造都市・東京」を国内外にアピールするとともに、国内外の関係者が東京に集うプログラムや事業を展開し、ネットワークを強化する事業	<b>ジャンル</b>	
<b>事業のねらい</b>	東京の文化の海外への発信と国際ネットワークの構築を図る。		
<b>内容</b>	<p>世界各国の若手の芸術・文化関係者5名と、国際会議登壇者4名の計9名を招聘、主に都内の様々な文化事業・施設を視察、関係者やアーティストとの意見交換や交流を行った(11月6日～11月15日)</p> <p>【開催日及び会場】・招聘者との意見交換会／11月8日／ブリティッシュ・カウンシル</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化事業視察／滞在期間中</li> <li>・関係者やアーティストとの面談等／滞在期間中</li> </ul> <p>【来場者数等】 招聘者:9人 招聘者との意見交換会参加者100人以上</p>		

<b>成 果</b>	<b>課 題</b>	<b>今後の方向性</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●自国のマスメディア等に招聘プログラムの印象を公表するなど参加者からの成果が得られた。</li> <li>●多国籍、他分野のメンバーとし、視察先・面談先も多様性を重視し、独自性を強く打ち出した。</li> <li>●招聘者との関係を築き面談や視察を通してネットワーク拡充につなげることができた。</li> <li>●招聘者の東京の芸術文化の現在に対する関心が深まった。</li> <li>●興味深く多様な人材を東京に集め、様々な考え方を東京の芸術文化関係者と分かち合うことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ネットワークを今後更に発展させるための方法を検討する必要性</li> <li>■持続し発展するネットワーク構築のためのアフターフォローの必要性</li> <li>■招聘人材のリサーチの重要性</li> <li>■より深い交流と東京の芸術文化関係者とのマッチング</li> </ul>	<p>国際会議と連携して実施し、招聘者と日本の文化関係者との面談や事業の視察等を通して、ネットワークの構築を図ることができた。平成26年度をもって事業終了とし、新生アーツカウンシル東京の国際ネットワーク事業として、海外の芸術文化団体や文化施設とのネットワークを構築し、東京の芸術文化の発信力を高めていく。</p>